

農業経営の大規模化、 遊休農地の抑制を実現

岩手県奥州市 胆沢平野土地改良区

取材・文／佐々木泉 写真／よねくりりょう



お話をうかがった胆沢平野土地改良区の高橋優恵さん(右)と佐々木稔さん(左)。

農業者の高齢化に伴い、
農業用水路の維持管理が課題に

岩手県奥州市と金ヶ崎町にまたがる「胆沢平野土地改良区」の受益面積は9429ha、組合員数は6754人。奥羽山脈に源を発する胆沢川によって形成された広大な扇状地です。扇状地内には河川がなく、古くから整備された農業用水路を土地改良区と地元農業者で管理してきました。しかし、農業者の高齢化によって水路の草刈りや補修ができなくなり、遊休農地が発生して担い手への農地集積が進まないなどの課題が生じていました。



板柵で補修した水路。



(上)未補修の農道。(下)轍を直し、敷き砂利をすることで大型の農業機械も安全に通行できるようになる。

水路や農道の補修だけでなく
協働意識の向上にもつなげる

「農地維持支払交付金」で取り組んでいるのは主に畦畔・農用地法面等の草

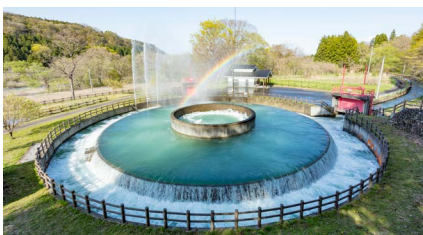
「農地・水・環境保全向上対策」、平成23年から「農地・水保全管理支払交付金」、平成26年から「多面的機能支払交付金」を活用し、事業に取り組みましたが、地元農業者だけでは活動を効果的に行えないため、水路整備のノウハウを持つ土地改良区が事業委託による活動支援を行うこととなりました。土地改良区では、事務作業だけでなく、地域間の調整から水路補修の測量設計・工事発注までを行っています。

刈りです。

「農地の集約化が進むなか、農家の経営規模が拡大しています。一つの農業法人で100ha以上の農地を管理するので、草刈りまで手が回らないのが現状。事業により、最低でも年二回は草刈りができるため、担い手農家の負担軽減にもなっています」と話すのは胆沢平野土地改良区の高橋優恵さん。

「資源向上支払交付金」では農道の敷き砂利、水路の補修・更新、地元の小学校と連携した米作りや生きもの調査などの活動に取り組んでいます。また、この活動では離れた農家の農地周辺の水路も交付金を活用して補修できるため、遊休農地の発生防止にもつながっています。

「農地所有者のいかに関わらず、水路はつながっています。一カ所が滞れば周辺農地に影響しますから、統轄した管理が必要です。また、水路や農道の補修は専門業者に委託しますが、仕



(右上)水路補修の仕上げは農家の共同作業。(右下)農地の一部は実習田として地元の小学生に開放している。(上)改良区内の水路に水を配分して送る「円筒分土工」は国内最大級の規模。



上げ作業などは農家の共同作業で行うので、互いに協力するという気運が高まりました。整備するエリアを決めるときも、257分区の各分区長からの要望を聞き、話し合うことから始めます。地域の農地をみんなですべて守っていく、そんな協働の場にもなっています」

水路や農道の補修・更新などを行ったことで遊休農地の解消が図られ、農業経営の大規模化につながりました。また、河川に恵まれない胆沢地区では、消防用水も農業水路から賄われるため、「多面的機能支払交付金」は地域の防災、安全にも大きく関わっています。

お問い合わせ 胆沢平野土地改良区 TEL:0197-24-0171